

家康公に学び、大樹寺と共に歩む

大樹寺学区

DAIJUJI



未来に伝えたい

社会教育委員会 年間行事



社会教育委員会の体育部、女性部、子ども会、老人クラブの4部が、お互いに協力しながら様々な行事を企画・運営。
学区独自のソフトインディアカを始めとする6種のレクリエーションスポーツなどを通して地域のつながりを大切に育んでいます。

3月	2月	1月	12月	11月	10月	9月	8月	7月	6月	5月	4月
出前講座（老人クラブ主催）	常任委員会	ミニテニス大会（体育部主催） （老人クラブ主催）	ソフトインディアカ大会（体育部主催） 老人クラブ社会見学いきいき活動 （老人クラブ主催）	レクリエーション大会（子ども会主催） 文化講習会（女性部主催）	岡崎市民体育祭 グラウンドゴルフ大会（老人クラブ主催）	敬老会（総代会が中心になって開催） グラウンドゴルフ大会（女性部主催） 出前講座（老人クラブ主催）	学区運動会 （社教主催・4部会が協力して実施） 敬老会（総代会が中心になって開催） グラウンドゴルフ大会（女性部主催）	防災訓練講習会 （社教主催・4部会が協力して実施）	子ども会球技大会（子ども会主催）	ソフトミニバレーボール大会 （女性部主催）	社会教育委員会総会 グラウンドゴルフ大会（老人クラブ主催） スローピッチソフトボール大会 （体育部主催） 出前講座（老人クラブ主催）



12月のソフトインディアカ大会。市内でソフトインディアカの大会を行うのは大樹寺学区だけ



11月には子ども会の主催で、ゲーム「何人乗れるかな」など、レクリエーション大会が開かれる



4月と10月に行われる老人クラブ主催のグラウンドゴルフ大会



6月に開催されるソフトミニバレーボール大会。1週間前から練習を積んで本番を迎える



編集後記

岡崎市制100周年記念の「岡崎まちものがたり」が、素晴らしい内容で出来上がりました。作成委員会のメンバー、編集に携わっていただいた皆様、思い出の写真やエピソードを提供してくださった皆様など、多くの方の協力と熱意のおかげです。

今後とも末長く家康公に学び、大樹寺と共に歩む大樹寺学区であってほしいと心から思います。

〔作成委員会〕 是枝宏明/長谷川初彦/鈴木利雄/鈴木昌夫/柴田仁志/片桐徹（大樹寺小学校教頭）/洞井治/近藤直樹/植松和代/高橋建一/井村幸一/ほか

〔参考資料〕 わたしたちの町 大樹寺/大樹寺小学校開校120周年記念誌/大樹寺小学校開校140周年記念リーフレット/大樹寺の歴史
〔表紙写真〕 学区運動会での集合写真。大樹寺学区のように小学校と学区で別々に実施する学区運動会は市内でも珍しくなっている（2015年9月13日 柴田直一氏撮影）

大樹寺学区のなりたち



1 弥生時代中～後期の味噌粕岩（かすいわ）遺跡。壺や鉢などの弥生式土器が多数見つかった



昭和31年頃に撮影された大樹寺学区婦人会の皆さん（市川清海氏提供）



昭和35年当時の百々団地。岡崎で初めての団地だったため、以後の団地づくりの手本となった



自立の心や郷土への愛着を育む 大樹寺小学校の「家康学習」

松平家・徳川將軍家の菩提寺である大樹寺に隣接する大樹寺小学校では、郷土の雄として知られる徳川家康公の生き方を考える「家康学習」を実施。全校児童で遺訓を唱和したり、自分で良いと思うことを考えて実行したりするなど、家康公の自立の精神を教育活動全般の柱としています。

家康の自立

△若き日の家康公が登壇上人に諭され、祖洞和尚に救われて自立する姿を、野外演劇にまとめて組み体操で演じている



みんなで唱和している 徳川家康公の遺訓

人の一生は重荷を負うて遠き道を行くが如し
急ぐべからず
不自由を常と思えば不足なし
心に望み起こらば
困窮したるときを思ひ出すべし
堪忍は無事長久の基
怒りは敵と思え
勝つことばかり知りて
負くることを知らざれば
害その身に至る
己を責めて人を責むるな
及ばざるは過ぎたるより勝れり



和太鼓



△篠笛、締太鼓、胴長太鼓、鉦（かね）を使って、オリジナル曲「家康の自立」を演奏する和太鼓部「阿吽（あうん）」。

三河武士の先陣争い



△全校男子児童が家康公の12家臣団に属し、赤白2組に分かれた騎馬戦で、家康公から先陣を任される家臣団を競う

祖洞の力



△校長先生が70人力といわれる祖洞和尚に扮して、赤白2組に分かれた全校女子児童による綱引きを応援する

「家康学習」の主な取り組み

「家康学習」は家康公について継続的、系統的に学ぶだけではなく、家康公の生き方を考える中で、困難に直面した自分を奮い立たせたり、さらに飛躍させたりするために不可欠な心の土台をつくるようにしています。そしてそこから郷土への愛着や誇りを持つようになることが大きなねらいです。



△6年生によるボランティアガイド。学びの集大成として、保護者や観光客に6年間で学んだことを発信する



大樹寺小学校のキャラクター「たけちよくん」です



▷体験と体感を重視した学習。大樹寺の総門前で、住職から祖洞和尚について話を聞く

▷毎月23日は「自立の日」。自立の活動として、地域のシンボルであり、日頃からお世話になっている大樹寺を自ら進んで清掃する

まちのあゆみ

DATA

□人	□	13,235人
男性	6,614人	
女性	6,621人	
□世帯数	5,625世帯	
□面積	2.05km ²	
[2016年7月1日現在]		

学区内の遺跡でもっとも古いものは、井ノ口新町と上里町の境界付近で発見された弥生時代中～後期の味噌粕岩遺跡（写真1）。この遺跡からは矢作川流域でもっとも古い弥生式土器が出土しています。また、近くの井ノ口町でも2つの遺跡が見つかっており、弥生時代の後期（3～4世紀）にはこのあたりに11の村があったと考えられています。

徳川家康公の祖先である松平氏がこの地で頭角を現すのは、松平3代の信光公が幕府の命を受けて額田郡の一揆を鎮定した室町時代です。さらに応仁元年（1467）には、大門の渡しを通過して攻め入ってきた尾張品野・三河伊保の軍を、松平4代の親忠公が井田野の地で撃破。この時の戦死者を葬ったのが現在も残る「千人塚」（地図F）であるといわれています。その後、文明7年（1475）に大樹寺が創建されました。江戸時代になると、学区は鴨田村、大門村、門前村、百々村、井ノ口村という5つの村に分かれました。当時は農業のほか、木綿づくりも盛ん

家康公の人生観の確立と
一代の危機を救った

大樹寺

1 天文4年(1535)、松平清康公によって建立された多宝塔。境内でもっとも古い建物で、一層は方形、二層は円形の格調高い形状で知られる。国指定重要文化財
2 大樹寺の山門。寛永18年(1641)、3代将軍徳川家光公によって建立された。境内から山門、総門を通して岡崎城が見える。県指定文化財
3 大樹寺の本堂。文明7年(1475)に創建されたが、安政2年の火災により焼失。安政4年(1857)に徳川13代将軍家定公が再建した



松平家・徳川将軍家の菩提寺として知られる大樹寺は、成道山松安院と号し、文明7年(1475)に松平4代の親忠公(家康公から5代前の先祖)によって創建されました。本尊の阿弥陀如来は平安末期の作といわれ、光背に千仏を宿すところから別名「一光千体仏」と呼ばれています。

公が没前に残した遺言の四カ条の一つに「位牌は三河大樹寺に祀るべきこと」とあることから、松平8代と徳川14代の位牌がそれぞれの等身大(亡くなった時の身長)でつくられ、今も大切に安置されている大樹寺。毎年4月17日には家康公の遺徳を讃える御神忌法要が営まれています。

若き日の家康公と大樹寺

歴史に名高い桶狭間の合戦があったのは家康公が19歳のとき。主君の今川義元が倒れて身の危険を感じた家康公は、大高城から大樹寺に逃れ、先祖の墓前で自害すべく、13代住職の登誉上人に覚悟のほどを表しました。

しかし上人は「厭離穢土、欣求浄土」、すなわち「戦国乱世を住みよい浄土にするのがお前の役目」と訓し、悩める家康公を翻意させたといわれています。また、このときに家康公の命を救ったのが寺僧の一人、祖洞和尚でした。祖洞和尚は、家康公を追って大樹寺を取り囲んだ野武士の一隊に門のカンヌキを引き抜いて対峙。70人力で阿修羅の如く戦い、敵を退散させました。

のちに家康公は「厭離穢土、欣求浄土」を終生の座右の銘に、そしてカンヌキを立志開運「貫木神」と命名。カンヌキは今も大樹寺に安置されています。

大樹寺と岡崎城をつなぐ ビスタライン

大樹寺から岡崎城天守閣を望むビスタラインは、徳川氏と岡崎の歴史を象徴する歴史的展望です。これは家康公の17回忌を迎えた年である寛永18年(1641)、徳川3代将軍の家光公が大造営を行い、本堂の北側中央の間に設けられた須弥壇に位牌を立てて、南側の部戸を開くと山門、総門を通して天守閣を遠望できる趣向にしたことが由来とされています。この眺望は明治6年(1873)の岡崎城取り壊しまでの約250年間続きました。

その後、昭和34年(1959)に岡崎城が再建されたことにより、ビスタラインが復活。後世に引き継ぐべき市民共通の資産として、これからも大切に保全されていくに違いありません。



ビスタラインの「ビスタ」とは「眺望・展望」という意味。大樹寺と岡崎城を結ぶ約3kmの直線がビスタラインと呼ばれている



5 大樹寺の総門から行われた光ビスタライン。当日はテレビの取材も入った
4 昭和48年3月3日、最後の運行を行なう名鉄挙母線電車
3 昭和39年の中部第2工区土地区画整理事業によって誕生した河原町
2 まだ大樹寺交番があった頃の鴨田交差点。奥に市民ホームも見える

- 一九五五年 ■ 昭和30
- 一九五六年 ■ 昭和31
- 一九五九年 ■ 昭和34
- 一九六二年 ■ 昭和37
- 一九六三年 ■ 昭和38
- 一九六六年 ■ 昭和41
- 一九七三年 ■ 昭和48
- 一九七四年 ■ 昭和49
- 一九七六年 ■ 昭和51
- 一九八〇年 ■ 昭和55
- 一九八四年 ■ 昭和59
- 一九九二年 ■ 平成4
- 二〇〇五年 ■ 平成17

岡崎市との合併により、小学校が岡崎市立大樹寺小学校(↓地図6)と改称する

百々の山林に市営住宅荒井山荘と県営鴨田住宅が建てられる

鴨田交差点に信号機が設置される…2

名鉄岡崎市内線の廃止に伴い、最後の花電車が走る

岡崎市で2番目に早く、鴨田土地区画整理事業が行われる。

これを機に鴨田公園や国道248号の用地が確保されて、鴨田本町ができる

中部第2工区土地区画整理事業が行われて、青木町、井ノ口新町、鴨田南町、河原町、寿町、百々西町ができる…3

名鉄挙母線が廃止される…4

学区内の国道248号が完成。また、岡崎東阿知和土地区画整理事業が行われて、堂前町ができる

大門小学校が新設されて、大樹寺学区の一部が大門学区となる

県道26号岡崎環状線の大樹寺―大門間が開通する

大樹寺小学校で、自立の心や郷土への愛着を育む「家康学習」の一環として、運動会の野外劇が始まる(↓特集)

岡崎大橋が完成。大樹寺の景観を損ねないように、隣接する小学校の塀を白壁として、花崗岩を用いた石畳の道路に改装される

大樹寺小学校に新屋内運動場が完成。ビスタライン(↓特集)を確保するため校舎と地下通路で結ばれる(平成21年にサ―チライトでビスタラインの照射実験が行われた)…5

COLUMN まちのひろがり

大樹寺学区は岡崎市の中心部より3kmほど北にあります。大正時代から昭和40年代にかけて大樹寺駅があった頃は、名鉄岡崎市内線の終点として、そして名鉄挙母線の始発駅として岩津方面や滝・大沼方面の中継地点として栄え、現在も岡崎市の北の玄関口にあたる役割を担っています。

学区の真ん中を南北に抜ける道は、かつての国道248号であった県道岡崎足助線。江戸時代から「善光寺道」として賑わった街道で、鴨田や百々などの町は、この道に沿って発展しました。

なお、鴨田、井ノ口、百々(七社、西平、四ツ谷、東側)などは古くから栄えていた町で、曲りくねった幅の狭い道が多く見られます。一方の青木、河原、井ノ口新町、鴨田南、百々西、寿などは新しくつくられた町。大樹寺学区は古い町と新しい町がはっきりと分かれながらも混在していることが大きな特徴です。

H 青木町



今 堤防の同じ場所から見た青木町。現在は水田も全くなり、新興住宅地となっている

昔 青木川の堤防から見た昭和53年頃の青木町。青木川に沿った低地で、昔から水田が多く、米づくりの盛んなところだった

G 大樹寺小学校



昔 東校舎北棟、給食室、西校舎北棟などが整った昭和37年の大樹寺小学校。昭和36年に完成したプールには、岡崎市で初めて低学年用プールが併設された

今 平成25年の大樹寺小学校。道路で隔てられていたプールは住民の理解と協力を得て移設、平成14年に新プールが完成した。また、平成17年には新室内運動場が完成。ビスタラインを確保するため、校舎と地下道路で結ばれた



昔 昭和55年の大樹寺小学校。昭和44年に鉄筋コンクリート2階建て校舎、昭和47年に中校舎が増築されたが、児童数の急速な増加に追いつかず、昭和51年に大門小学校と分けられることになった

F 千人塚・三十三観音



松平4代の親忠公と尾張品野三河伊保の軍が戦った応仁元年(1467)の戦の後、戦死者を葬ったといわれる千人塚

西光寺の三十三観音は江戸時代後期の天保4年(1833)に設置された。井田観音から大樹寺道を通り、三十三観音を経て「極楽橋」を渡ると大樹寺へ至る



A 河原町



昔 青木川の堤防から見た昭和53年頃の河原町。田や畑が一面に広がる低地だった



今 昔と同じアングルから見た現在の河原町。家やアパートなどが建ち並び、百々の山が見えにくくなった

●A 河原町(→年表3)

標高50~60mの百々の山などで見られる鮮やかな赤茶色の地層は、約30万年前にできたといわれている

B 百々城跡



七所神社の東隣りにある百々城跡。松平氏に仕えた青山氏が代々居城としたが、家康公が関東移封となった天正18年(1590)頃に廃城となった

C 堂前町



昔 昭和52年頃の堂前町。松橋の山と百々の山の谷間で前田川沿いの低湿地だった



今 現在の堂前町と百々2区あたり。国道248号や都市計画道路の建設と、いくつかの公園ができたことで、田畑は急速に減っていった

E 県営鴨田住宅・市営住宅荒井山荘



昔 昭和35年頃の様子。市営住宅荒井山荘は木造1戸建てが中心、県営鴨田住宅は連棟2階のコンクリート造りで、当時では珍しいモダンな住宅だった



今 現在の県営鴨田住宅。昭和61年には荒井山荘に鉄筋コンクリート5階建て住宅4棟、平成元年には鴨田住宅に鉄筋コンクリート5階建て住宅4棟が完成した

D 大樹寺バス停



昔 昭和48年3月3日、名鉄挙母線の廃止に伴って「さようなら電車発車式」が行われた大樹寺駅



今 大樹寺駅のあった場所は、今も名鉄バスのバスターミナルとして多くの人に利用されている

歴史名所と今昔アルバム

大樹寺学区

大樹寺学区のある地域は、矢作川が低地を思うがままに流れていた弥生時代を経て、家康公の危機を救った大樹寺や境内にあった大樹寺小学校と共に発展してきました。昭和48年に名鉄挙母線の電車が廃止(→年表5)となり、学区内の国道248号(昭和49年完成)や県道26号岡崎環状線(昭和55年完成)が開通したあたりから急速な都市化が進んできました。